

短期間に無理やり覚えても一瞬で忘れるスペイン語力  
少々時間を要してでも強固に定着するスペイン語力  
あなたはどっちのスペイン語力を身に付けたいですか？

## Nuevo Estilo

Nuevo Estilo Español

新しい様式の

スペイン語習得法

宮崎 博 著

「Nuevo Estilo ～ 新しい様式のスペイン語習得法」

もくじ

はじめに.....	3
Vísteme despacio, que tengo prisa ～急がば回れ～.....	6
「覚える力」は重要ではない.....	10
スペイン語を「活かす力」を身に付けるには？.....	13
Nuevo Estilo ～ 新しい様式のスペイン語習得法.....	15
■ Nuevo Estilo スペイン語習得法：ルール 1.....	16
■ Nuevo Estilo スペイン語習得法：ルール 2.....	21
■ Nuevo Estilo スペイン語習得法：ルール 3.....	23
■ Nuevo Estilo スペイン語習得法：ルール 4.....	25
■ Nuevo Estilo スペイン語習得法：ルール 5.....	28
おわりに.....	32

## はじめに

こんにちは。宮崎博です！いつも私のメルマガ、スペイン語講座を活用して頂きまして、誠にありがとうございます。今回は、日頃から私のメルマガ、スペイン語講座をご活用頂いていることへのお礼として、特別な「最新スペイン語習得法」をこの**無料レポート**にまとめて読者の皆さんに配布させて頂きたいと思います。

まず、最近の世界情勢を振り返ってみますと、2020年...私たちには忘れることの出来ない出来事が起こりました。そして、誰もこのような事態になるなんて予測出来なかったのではないのでしょうか（「占い師」は沢山いますが、果たして何名の占い師の方がこのコロナ禍を予知的中させることが出来たのでしょうか^^;)。

この間、私たちは多くの変化を強いられました。マスク着用に始まり、建物内では「会話するな」「人と接触するな」「人が集まるところに行くな」「外出するな」等、人間に対する扱いではないようなこともありました。

## 「Nuevo Estilo ～ 新しい様式のスペイン語習得法」

このような生活の急激な変化による影響は、英語を中心とする業界でも見られました。大手の会話スクールや教室では対面式が駄目だとされた以上、「オンライン方式」にシフトせざるを得ませんでしたし、従来からあるオンライン会話では、申し込みが殺到して予約がなかなか取れない、なんてこともありました。

それ以外にも、色々な変化がありました。特に、緊急事態宣言による外出自粛以降、自宅で学習をされる方、あるいは徹底的に集中して学習される方が一気に増えました。

一方で、入国の規制により外国人が日本へ来なくなり、街でも外国人を見掛けることがなくなり、日本から海外へ行くことも出来なくなり、スペイン語そのものをやめてしまう人が沢山いたことも事実です。使い道がなくやっても無駄、という理由です。

通訳翻訳業界においても、多くの方が仕事に見切りをつけ、アルバイトを始める人や語学とは関係のない全く別の仕事に就きました。

## 「Nuevo Estilo ～ 新しい様式のスペイン語習得法」

そんな紆余曲折を経て、コロナによる規制が撤廃され外国人の姿が街に戻り、日本人学習者の語学に対する学習意欲が再び高まってきました。この一連の期間においては、私にとっても特別な経験となり、貴重な情報を得たり知識を深めたりすることが出来ました。それは例えば、多くの日本人学習者に共通する悩みや、取り組みについての間違いや問題点を明確に知ることが出来たこと、そして、そういった問題や学習者の悩みについての根本的な解決策を確認出来たこと、そして何よりも「新しい様式のスペイン語習得法」を確立出来たことが挙げられます。

この無料レポートでは、コロナ規制という先の見えない「逆境」の中で幸運にも差し込んだ「希望の光」、つまり、「新しい様式のスペイン語習得法」について、あなただけに特別にシェアさせて頂きたいと思います。是非、最後までじっくりと目を通して頂ければと思います(^^)

世界を繋ぐスペイン語通訳・翻訳者

宮崎 博

## Vísteme despacio, que tengo prisa ～急がば回れ～

大多数の日本人学習者が実践しているスペイン語の勉強法...それは今更言うまでもないかも知れませんが、出来るだけ多くの単語を暗記し、文法を中心とした知識を沢山頭に詰め込むという、まさに「**受験的**」アプローチです。このアプローチで語学習得を目指す理由として、殆どの人が中学校で・高校で・大学受験で当たり前のように実践してきた「英語の勉強」で、何語であったとしても、語学習得＝「**受験的**」アプローチと信じ切っている、ということが挙げられます。とにかく知識を詰め込む・暗記する・覚えるということが最善の方法であるとする学習の仕方です。

実際、この「**受験的**」アプローチの魔力は強大で、多くの学習者がこちらに引き寄せられてしまいます。他の学習法を知り「なるほどなあ」と納得したはずの学習者の殆どは、結局この「**受験的**」アプローチに戻ってしまいます...

また「**受験的**」アプローチ以外にも、「1日〇〇分聞き流すだけで、気付いた時にはペラペラに！」といった、短期間で身に付くという訴求をする教材は全ての言語において大人気です。そういった教材では、大抵の場合「とりあえず」ひたすら聴いたり、

## 「Nuevo Estilo ～ 新しい様式のスペイン語習得法」

手あたり次第に暗記したり...といった学習をします。学習者の側からしても、時間が掛かるよりは短期間でスペイン語を話したり聴き取ったり出来るようになりたいし、勿論、早い方が良いわけなので、表面的であっても「効率的」な学習に魅力を感じるわけです。

しかし、前者の「受験的」アプローチによるスペイン語学習や、たった〇〇日でペラペラに！なんて荒唐無稽な学習法で、「本当のスペイン語力」が身に付くのか？と言えば、答えは **100%**ノーでしょう。それで「身に付いた」という人がいるなら、それは絶対に嘘だと断言出来ます。これらの表面的で内容が薄く、手あたり次第に何でも暗記するような学習をどれだけ続けてもスペイン語を話せるようにはならないですし、聴き取れるようにもならないのです。

なぜなら、そのような「手あたり次第のスペイン語力」は、一瞬はとても力が付いたように感じることはあっても、早い場合だと10分もしない間に【忘れる】から、です。恐らく、あなたにも思い当たることがあるのではないのでしょうか。学校の英語教育の延長の勉強法で学習し、そこで知り得た単語をピックアップして手あたり次第に暗記しても、5分10分経った頃には完全に忘れていて...なんていうことが。

## 「Nuevo Estilo ～ 新しい様式のスペイン語習得法」

私は職業柄、毎日たくさんのスペイン語学習者からスペイン語に関する質問・相談を受けるわけですが、その多くが「覚えてもすぐに忘れてしまう」という悩みです。

スペイン語に限らず、語学学習者にとって一番ダメージが大きいのが「忘れる」ということではないでしょうか。毎日一生懸命勉強して単語を覚え文法を理解しても一瞬にして記憶から消えてしまっていくのでは、終わりが見えないまま「いつになったら帰れるんだろう...」と絶望し、夜遅くまで続く仕事のようなものです。

確かに、習得出来るなら遅いよりは早い方が良いに決まっていますが、それが行き過ぎて効率性や即効性ばかり追い求めてしまい、「今すぐペラペラになる」「今すぐ聴き取れるようになる」といった【淡い期待】を抱き過ぎたのではないのでしょうか？或いは「受験的」アプローチのように、「失敗は許されない」といった【失敗排除主義】に心を奪われ過ぎていたのではないのでしょうか？

本当のスペイン語力を身に付けるためには、もっと違った角度から「**新しい様式のスペイン語習得法**」を知ることが必要不可欠です。それは、手当たり次第の暗記や文法知識の詰め込み、あるいはその場限りで一瞬で消えてしまうスペイン語の学習とは  
対極にあるものです。「**急がば回れ**」...即効性が求められる語学学習において、この

## 「Nuevo Estilo ～ 新しい様式のスペイン語習得法」

「急がば回れ」というのは矛盾しているように感じるかも知れないけれど、実践で使える【真のスペイン語力】の身に付け方について、ここから詳しくお話ししていきます。



## 「覚える力」は重要ではない

今も昔も変わらず、語学習得を目指す日本人学習者は、その殆どの人が語学習得は「知識を詰め込むこと」であると勘違いしています。でもこれは、既にお話しした通り私たち日本人が学校での教育の中で教わり続けてきた「正しい勉強法」なので、勘違いして当然なのです。スペイン語であれば、どれだけ沢山の単語を覚えていて、どこまで細かく文法を理解しているのか、ここが重要視されるわけです。大学であれば、前期や後期のテストでその成果が試されます。重要視されるのはいつだって、どれだけ多くの知識を覚えていて、どれだけ正確に「回答出来るか」なのです。

ですが、そのような学習を続けていても、「テスト」という点では多少の効果があるかも知れませんが、学習者の多くが望んでいる「スペイン語ペラペラ」に話す能力...つまり、スペイン語を母国語とする外国人との**コミュニケーションのツール**としてのスペイン語力（スペイン語を話したり聴き取ったりする力）は全く身に付きません。実際に、多くの学習者が挫折し、全然上達せずにスペイン語が嫌いになった...という衝撃の事実があるのです。

## 「Nuevo Estilo ～ 新しい様式のスペイン語習得法」

ここで、一つハッキリとさせておかなければならないことがあります。それは、...

**「語学習得で重要なのは【覚える力】ではない！」**

...という事実です。

私もかつては語学習得に失敗してきたクチです。単語を沢山覚えれば聞き取れる単語が増えて内容が理解出来ると信じてまっしぐらに暗記を繰り返していました。仕事の休憩中に単語帳を読んでいた。でも、実際にはネイティブスピーカーが話す英語やポルトガル語が聞き取れず、何一つ内容を理解出来ませんでした。

今でも、かつての私と同じように、一日 20 単語覚えている、数千数万の単語を暗記したと声高に宣言する人がいますが、それで語学（この場合はスペイン語）が話せるようになるのか？といえば、実践、つまり会話では何も聞き取れず、あるいは知っている単語が聞き取れたところで内容を全く理解出来ず、「えー...あー...」と呟くだけで何も話すことが出来ずに心が折れてしまう...そんな学習者が沢山います。

これらの事例から、重要な事実が分かります。語学習得においては、単語や文法の知識を頭に詰め込むスキル、つまり「覚える力」は、ネイティブスピーカーとの

## 「Nuevo Estilo ～ 新しい様式のスペイン語習得法」

コミュニケーションという点においては全く意味がなく、全く効果を発揮しないという事実を受け入れることです。それよりはむしろ、覚えたことを思い出し、それを

**「活かす力」**、こちらの方を鍛える必要があるのです。

何千何万の単語を無理やり頭に詰め込んだとしても、実際のネイティブスピーカーとの会話において、それらの単語の意味を瞬時に想起し、キーワードとして自由自在に活かすことが出来るスキルがなければ、それらの知識も頭に詰め込んだ労力も無駄と  
言っても過言ではありません。この事実に気付き、そして受け入れることこそが、今後のスペイン語学習においてあなたが本当に使えるスペイン語力を身に付けることが出来るか出来ないかの、重要なポイントとなるでしょう。

## スペイン語を「活かす力」を身に付けるには

実際、既にスペイン語を話せる日本人というのは、初期の段階で上述のような「知識の詰め込み型学習」から卒業しています。なぜなら、そういった「覚える力」のみを重要視する古代の勉強法は長期的視点で見た場合、本当の意味でのスペイン語力を身に付ける上で無意味であることを、身をもって体験しているからです。だからこそ、通訳者やバイリンガル、トリリンガルやマルチリンガルの日本人は単語を何前何万と覚えている、あるいは文法をどれだけ詳しく知っているか...ということには全く興味が無いのです。

そんなことに熱くなるのは、かつての学校の英語教育に取りつかれた「文法オタク」か、知識は豊富だけど実際のスペイン語での会話が全く出来ない「スペイン語博士」、あるいは細かいこと、どうでもいいことにこだわらないと気が済まない「変態学習者」だけです。

一方、既にスペイン語を話せるようになった日本人はスペイン語を「覚える力」よりも、覚えたスペイン語を思い出し「活かす力」を鍛えているのです。

## 「Nuevo Estilo ～ 新しい様式のスペイン語習得法」

「活かす力」というのは例えば、スペイン語の語句や表現をネイティブスピーカーとの実際の会話で無意識に、パツと言えたり、ネイティブのスペイン語を聴き取る際に自分から内容を推測し、包括的な聴き取りが出来るなど、真の意味でのスペイン語力のことです。

そのような、スペイン語を「活かす力」というのは、従来の「受験的」アプローチでは絶対に身に付けることは出来ません。機械的な暗記や文法的知識等の詰め込み学習、それに異常に短期間で習得にこだわる表面的な学習・トレーニングでは話にならないのです。

では、一体どのような習得法であればスペイン語を「活かす力」を身に付けることが出来るのか、その内容について詳しくお話ししましょう。

## Nuevo Estilo ～ 新しい様式のスペイン語習得法

まず、スペイン語を「活かす力」を身に付けるには、古来の知識の詰め込み・機械的暗記型アプローチから、多少の時間が掛かってでも、表面的ではない、より奥深く本質的なスペイン語学習へシフトすることが大切です。これは、学習者自身の意識を能動型に変えない限り、厳しいかも知れません。しかし、古来型の学習をいつまでも続けていても状況は改善しないので、このタイミングで思い切って学習法・アプローチの変更を受け入れると良いでしょう。

このスペイン語を「活かす力」を体得するためのスペイン語習得法を私は、、、

### **【Nevo Estilo ～ 新しい様式のスペイン語習得法】**

...と呼んでいます。

この新しいスペイン語習得法は、次のページからご紹介する5つのルール「習慣づけ」があって成り立つものです。其々のルールについて具体的にお話ししますので、是非じっくり読んで理解して頂ければと思います。

## ■ Nuevo Estilo スペイン語習得法：ルール 1

### 「常に学習内容を思い出す習慣を身に付ける」

既にお話ししたように、古来型の暗記中心・文法を中心とする知識の詰め込み学習では、単語や文法などを「無理やり頭に詰め込むこと」＝「無理やり覚える力」に重点を置いてしまいます。とにかく、手当たり次第に大量に知識を増やして暗記すれば目標達成とする学習アプローチです。

確かに、大学の前後期のテストなどでは効果があるかも知れませんが、あなたも経験があると思いますが、大学のテストも、中学や高校のテストも「その場限り」で得点を取れば良いのです。但し、そこで覚えたことを長期記憶に落とし込めるか、必要な時にパッと出てくるかと言えば、その方法では不可能でしょう。なぜなら、そのように表面的に身に付けた知識なんてものは、一瞬で忘れてしまうからです。どんなに良くても数日、学習者は試験から1週間後には記憶から消え去っている...殆どの学習者はこのパターンです。まさに、骨折り損のくたびれ儲け、無意味で虚しい暗記作業、それが古来より「正しい」とされてきた語学学習法の真実なのです。

## 「Nuevo Estilo ～ 新しい様式のスペイン語習得法」

一方「Nuevo Estilo 新しい様式のスペイン語習得法」では、そういった表面的に

「覚える力」ではなく、スペイン語を真の意味で「**活かす力**」、もっと言えば「**思い出**

**すスキル**」を強化することにフォーカスします。

具体的には「**分散練習法**」というメソッドによって長期記憶に強固に定着させる学習

を実践します。元々は心理学用語なのですが、「**学習**」⇒「**記憶**」⇒「**回想**」という

一連の3ステップから成る、分散型学習法のことを言います。

一般的に、私たちが子供の頃から実践してきた古来の語学学習では、スペイン語であ

れば、スペイン語を読み、日本語訳を確認し、そこで知らなかった語句や表現を覚え

て終了、となります。これはリスニングにおいても同じで、その時は「私、勉強出来

てる！」ような気になるのです。しかし、ここで一番根深い問題は、長期記憶への

定着で最も重要なステップである「回想（思い出すこと）」を全く実践していない、と

いうことです。

厄介なのは、当の本人はしっかりと学習していると錯覚してしまうのですが、実は

学習した内容が殆ど頭に残っておらず、時間と労力だけを費やすという、残念な結果

## 「Nuevo Estilo ～ 新しい様式のスペイン語習得法」

になってしまっている、ということです。そこで、あなたがスペイン語の学習を実践するに当たっては、「学習」⇒「記憶」⇒「回想」という3ステップを実践することを意識するようにしましょう。特に、最後のステップである「回想（思い出す）」の部分はとても重要です。以下、具体的な手順をお話ししましょう：

### 1. 学習：

スペイン語を読んだり聴き取ったり、書いたり話したりするトレーニングを実践します。ここで知らなかった語句や表現を拾い上げ、辞書等で調べ、意味や用法を確認します。ただ読むだけではなく、自分でも声に出して読んでみたり自分のシチュエーションに当てはめて自分が口にしようとする例文を作るなどの能動的な姿勢での学習が必要不可欠です。語学習得できる人は、必ずこういう能動的な姿勢で学習します。

怖いのは、読んだり聴いたりといった受け身的な作業のみで「**しっかり勉強した気分になってしまう**」という人が多いので注意が必要です。受け身、つまり「覚える」だけでは絶対に習得出来ません。覚えたものは必ず出す、という「**インプット⇒アウトプット（受け身⇒能動）**」このサイクルを意識した学習を心掛けましょう。

## 2. 記憶：

拾い上げた語句や表現を、その場で覚えるようにします。とはいえ、受験的アプローチのような機械的な暗記ではなく、多少時間が掛かってでも、「**意味がある文脈**」あるいは「**あなたが遭遇する可能性の高いシチュエーション**」に当てはめ、現実的に意味のあることを意識して覚えるようにしましょう。具体的な方法・手順については、後述します。

語学習得における記憶（暗記）と言うと、殆どの方は単語帳などを使った、文字を追うような無理やりな暗記・詰め込みをイメージするかも知れませんが、テスト勉強ならそれで高得点を狙えるかも知れませんが、その先もずっと使えるスペイン語力や語彙力を付けたいのであれば、そのようなアプローチでは不可能です。酷い言い方かも知れませんが、それならむしろやらない方がマシです。そうではなく、多少時間が掛かっても、自分で例文を作ったり、自分が遭遇する可能性が高いシチュエーションに当てはめたり、自分ならどうするかな、どう感じるかな...といった「想像」を積極的に  
行い、無機質な暗記にならないように注意しましょう。

### 3. 回想：

記憶した内容を「**思い出す**」学習を実践します。これは、一度学習したことを数日後、一週間後、二週間後、一か月後...などの」ように一定期間をあけて**忘れた頃に思い出すトレーニング**を実践すると効果があります。「**分散練習法**」という心理学用語は、このように間隔をあけて学習することなのです。

つまり、読み、書き、話し、聴く、といった其々のスペイン語学習を一度やって終わりではなく、忘れた頃にもう一度同じ題材、内容で学習する...これを繰り返すという勉強・トレーニングを実践するのです。

これを実践することにより、何度も脳に刺激を与えることが出来て、脳が活性化され、より強固に長期記憶に定着させることが出来るようになるのです。これこそが「**思い出すスキル**」を身に付ける効果的学習法と言えます。どんなことも一度やって終わりではなく、ある程度の期間をあけて忘れかけた頃に再度学習すると長期記憶に定着しやすいということを、覚えておきましょう。

## ■ Nuevo Estilo スペイン語習得法：ルール 2

### 「失敗は、常に歓迎する」

人間の脳は、問題なく順調に物事が進んだことよりも、何らかの失敗やトラブル、問題が起きたことで上手くいかなかった、**失敗した**ことの方をより鮮明に覚えているものです。なぜかと言えば、同じ失敗を繰り返さないために脳がそのような仕組みになっているわけですが、スペイン語学習においても、この「**失敗による脳への刺激**」を上手く利用することで、学習内容を長期記憶に強固に定着させることが出来るようになります。

普通、語学習得を目指す学習者というのは、日々の学習において、どれだけ「正解できるか」「正確に聴き取れるか」「文法的に正しいスペイン語を話せるか」ということにフォーカスして学習を進めています。勿論、間違えるよりは正しい方が良いわけですが、語学習得においては「**正解至上主義**」を追い求めても、最終的に良い結果にはなりません。なぜなら、人間は失敗したことの方をより鮮明に覚えている、つまり、

失敗した時・間違えた時こそ、沢山学び、大きく成長出来るから、です。

## 「Nuevo Estilo ～ 新しい様式のスペイン語習得法」

例えばリスニングの練習をしていて、スペイン語のスク립トとその日本語訳と自分が聞き取った内容、理解した内容を比べ、そこで上手く聞き取れなかった内容、理解出来なかった内容が多いと心が折れてしまう人は多いです。「全然聞き取れてない」「自分には才能がないんだ」と、自分を卑下します。

しかし、Nuevo Estilo のスペイン語習得法の観点で言えば、リスニングはむしろ上手く聞き取れない方がラッキーなのです。なぜなら、その分「伸びしろ」「新たな気付き」があるからです。「全然聞き取れない、ちくしょ～！」と感じた時こそが、学び・伸びるチャンスなのです。そんな時、あなたの脳は物凄く活性化しているのです。「聞き取れなかった」「理解出来なかった」「失敗した」「自分には才能がない」...等々、様々な感情が脳を刺激しているのです。そういう時は、チャンスなのです。

逆に、上手く聞き取れた時に喜んではいけません。その場合は、更にレベルの高いスペイン語音声にチャレンジしましょう。常に「ちょっと難しいな...」と感じる状態をキープすることで脳に負荷を掛け、刺激を与え続けることが出来ます。ルール1の「忘れた頃に同じ題材・内容で学習する」というのも、忘れるという**失敗が脳に刺激を与える**ことで長期記憶への定着の土台を作っていると考えると良いでしょう。

## ■ Nuevo Estilo スペイン語習得法：ルール 3

### 「常に自問自答する」

ご学習習得は「インプット（覚える）」⇒「アウトプット（出す・思い出す）」というサイクルの繰り返しで成し遂げられます。しかし、殆どの学習者が受け身の勉強・トレーニングに偏ってしまう傾向が見受けられます。原因としては、書籍や教材を読んだり講座を受けたりするだけで「しっかりと」勉強した気になってしまうからです。そして、そこで学習を終わらせてしまうわけです。

どんなことでもそうですが、入れっ放しでは中がすぐに一杯に溢れてしまいます。だからこそ、出さなければいけません。つまり、書籍や教材、講座などでインプットした学習内容は、その場で積極的に内容を理解した上で必ず外に出す・アウトプットするようにして下さい。そこで有効になってくるのが「自問自答」というトレーニングです。

## 「Nuevo Estilo ～ 新しい様式のスペイン語習得法」

具体的には、スペイン語を読んでいて知らない単語が出てきたら、いきなり辞書で調べるのではなく、自分なりにその単語の意味を推測してみる、つまり、前後の文脈から「こういう意味じゃないかな？」と推測してみるということです。そのように自問自答してから、辞書で確認するのです。もし自分が推測した単語の意味が合っていたり、近い意味であったりすれば嬉しいですし、たとえ間違っていたとしても、ルール2でお話ししたように、脳に「失敗による刺激」が与えられるので、受け身で辞書を調べて理解した時よりも語句や表現を脳の長期記憶に定着させることが出来るようになります。

この自問自答は、語句や表現に対してだけではなく、文法や語法を確認する時にも取り入れてみると良いのです。常に、学習した内容をしっかりと覚えているかどうかを一定間隔で自問自答し、常にインプット⇒アウトプットのサイクルを止めないようにして下さい。これを習慣化できれば、効果的なスペイン語学習を実践することが出来ます。そして、他の学習者から一歩抜きん出ることが出来ます。

## ■ Nuevo Estilo スペイン語習得法：ルール 4

「常に、想像する、イメージする、映像化する」

かの有名な理論物理学者、アルベルト・アインシュタイン氏は、次のような名言を残しています。

「想像力は知識より重要である。知識には限界があるが、想像力は世界を包み込む」

スペイン語だけでなく、あらゆる分野のスキル習得に成功する人には「想像力」が豊かである、という共通点があるということです。例えば、私はスペイン語を話す力を伸ばすには、自分が話すセリフの事前準備を推奨していますが、このような準備において必要とされるのは純粋なスペイン語力よりもむしろ「想像力」と言えるかも知れません。なぜなら、相手が訪ねてくる内容によって自分の発言内容は変わってきますし、その相手の質問内容を想像することで、自分が話すであろうセリフの準備も可能となるからですね。

## 「Nuevo Estilo ～ 新しい様式のスペイン語習得法」

この「想像力」はスペイン語を話す＝スピーキングだけでなく、リスニングやリーディングにおいては内容を理解する上で貴重なヒントを与えてくれますし、単語を覚える際にも文字だけを追いかけて覚えるよりも、想像することでシチュエーションを「絵」で思い描き、そのイメージと共に覚えた方が数万倍も長期記憶に定着させることが出来ます。脳裏に強烈に焼き付くのです。

語学習得に「想像力」なんて無関係で不要なものとする人がいるかも知れませんが、実は密接に関係しているのです。そこで、あなたがスペイン語を習得したいと望むのであれば、純粋なスペイン語力だけではなく、「想像力」も意識的に強化するようにして下さい。この「想像力」は意識して磨こうとしない限り自然に磨かれるというのはなかなか難しいですから、自ら積極的に行う必要があります。

具体的には、スペイン語を読んだり聴き取ったりする時は、文字を追うのではなく、常にその情景やイメージ、光景を思い浮かべるようにします。文字ではなく、常に**映像によって理解する**感じです。これが習慣として定着すると、リスニングやリーディングのようなインプット系の実践の際の、内容を理解する力・スピードが格段に向上します。文字ではなく、「映像」による情報の方が遥かに印象的で残りやすく、

## 「Nuevo Estilo ～ 新しい様式のスペイン語習得法」

その分強力であるということを覚えておいて下さい。

他にも、「**絵**」や「**写真**」を見てスピーキングやライティング（書く）といったアウトプット系の学習をするのもお勧めです。絵や写真を見ながら、それをスペイン語で説明するのです。ここで想像力をフル動員してストーリーを組み立てると効果的です。

DELE の口頭試験でこのようなパートがありますが、あれも スペイン語力よりも「想像力」を試されているのかも知れません。

語学習得に密接に関連する「想像力」を鍛えることで、スペイン語を話したり書いたり、読んだり聴いたりする力が飛躍します。簡単に言えば、スペイン語を耳にした時、目で読んだ時に無意識にその情景が脳裏に浮かんでくる感じですが、これは、スペイン語を書いている時も話している時も同じように無意識にイメージが浮かんできます。そのレベル・次元に到達するためにも、日々の学習において常に、意識して

**「想像」し「イメージ」し「映像化」する習慣**をつけるようにしましょう。

## ■ Nuevo Estilo スペイン語習得法：ルール 5

### 「常にスペイン語のパターンを意識する」

そして、新しい様式のスペイン語習得法の最後のルールは「**パターン意識する**」ということですが、スペイン語に限らず、新たな言語の習得に必須のものと言えますが、どの言語であっても、言葉には「パターン」があるのです。

例えば、初対面の相手との会話であればどのようなパターンの表現があるのか、自己紹介であればどのようなパターンがあるのか、こういう状況ではこんな言い方をし、相手がこう言ってきたらこのフレーズを使う、といったパターンのことですが、そういった慣用的なスペイン語の使い方を学ぶことが、スペイン語をマスターすると  
言っても過言ではありません。

日本人学習者は、単語は単語、文法は文法...のように別々に分けて考えてしまいがですが、スペイン語も他の言語も言葉であり、それ以上でも以下でもないのです。新しい言語を学ぶのであれば、その言語の慣用的なパターンを優先的に覚え、それを自分

## 「Nuevo Estilo ～ 新しい様式のスペイン語習得法」

でも言う（使ってみる＝インプット⇒アウトプット）、そこまでやって初めて身に付けることができます。

このような慣用的なパターンでというのは、本ではなく、ネイティブスピーカーの実際の会話を参考にするのが鉄則です。実際に外国人と直接会って話す、というのが難しい場合は、**スペイン語の映画やドラマ、YouTubeの動画**など「生のスペイン語」を使ってネイティブスピーカーが日常で使っているスペイン語の「パターン」をそのまま真似をして使うようにしましょう。

例えば挨拶の時、どのようなフレーズを使っていたか、それに対し、どのようなフレーズで返答していたか、「このシチュエーションではこんな表現を使う」といったパターンをあなたなりに分析し、ピックアップして積極的に使ってみると良いです。

そのように日頃からスペイン語のパターンを意識していると、徐々に全体像が見えてくるようになります。あ、今のはこのパターンだな...と分かれば、自信をもってスペイン語を話せるようになるはずですよ。

## 「Nuevo Estilo ～ 新しい様式のスペイン語習得法」

私たちの場合はスペイン語ですが、話す時に緊張したりアガったりしてしまう人というのは、このような「パターン」を知らずに、スペイン語を話すということが「**得体の知れないもの**」であると感じ、委縮してしまう傾向があります。

どんなことも、その実態が何なのかが分からないと怖いものです。例えば、見たことがない爬虫類、どこで何をやっているか分からず素性のハッキリしない人、自分の常識で計り知れないもの、どうなるか分からない未来...等々、正体が分からないものや予測できないことに対して人は大きな不安を感じるのです。

スペイン語も、実態が分からず、何をどう扱えば良いのか分からない...という段階であれば、不安でたまりません。そういう不安な気持ちや心配、恐怖といった感情が原因で緊張したりアガったりするのは、スペイン語を話す時に緊張で頭が真っ白になってしまう（飛んでしまう）、という人の殆どが、スペイン語の実態を理解しておらず、どう扱えば良いか分からない、どう接すれば良いか分からない...そのような恐怖を感じて緊張し、アガってしまうというわけです。

## 「Nuevo Estilo ～ 新しい様式のスペイン語習得法」

しかし、スペイン語を「パターン」で扱えるようになると、そういった不安や心配、恐怖が吹き飛びます。なぜなら、スペイン語がパターンで対応出来るのであれば、最低限のことを考えるだけで済むからです。故に、こういう時はこう言う、こういうフレーズを使えばいい...といったパターンを知ることが大切なのです。

単語や文法、その他ルールを全て覚えなければならない！と自分で自分を追い詰める必要はありません。そうではなく、パターンを優先し、パターンで覚えれば良いのです。そして、ある程度パターンが分かってきたら、今度はそれらのパターンの「組み合わせ」をすれば良いのです。

もし、スペイン語を上手に話す日本人の知り合いがいるなら、その人が使うスペイン語の「パターン」を意識してみてください。意外と少ないパターンの中でスペイン語を話していることに気付くかも知れません。沢山パターンを知っていればそれに越したことはありませんが、人が使うパターンは意外と少ない、または同じようなパターンなのです。それでも「スペイン語ペラペラ」に見えるわけです。そういったスキルも、実際のスペイン語の会話上達のためには極めて重要な要素であると言えるのかも知れません。

## おわりに

ということで今回は、「Nuevo Estilo：新しい様式のスペイン語習得法」を実践する必要がある、というお話でしたが、いかがでしたでしょうか？

簡単に復習しますと、これから新しい言語の習得を目指すならば、「短期間でペラペラに」「1日15分で〇〇後にはペラペラに」「聞き流していれば自然に聴き取れるように...」のような上辺だけの薄っぺらなメソッドではなく、真逆のメソッドである

**「急がば回れ」という学習法**を実践すべき、ということです。

特にスペイン語を「覚える力」よりも「活かす力」「思い出す力」の方が遥かに重要であり、そのためには、手当たり次第に機械的暗記をするのではなく、想像力をフルに発揮して自分のシチュエーションに当てはめてみたり、「自分ならどう考えるか・どう感じるか」と積極的に自問自答したりして、期間をあけて何度も繰り返し覚えたことの回想確認を行うことが重要であるとお話ししました。

## 「Nuevo Estilo ～ 新しい様式のスペイン語習得法」

また、本当の意味でスペイン語力を身に付けたいのであれば、古来から行ってきた「間違っ**て**はいけない」、つまり「正解至上主義」を排除し、「間違**えて**（失敗して）」脳に刺激を与え、負荷を掛け続けることが大切であるということもお話ししました。

これらのお話しは、古来の学習法で取り組んできた方々にとっては受け入れがたいかも知れません。なぜなら、新しいスキルの習得は**早ければ早い方が**良いですし、実際に「**早く結果を出したい!**」と考えるのが普通だから、です。しかし、今回私が提唱した新しい様式のスペイン語習得法はそれと正反対で、少し時間が掛かる勉強法・トレーニング法となっています。少し時間は掛かるけれど、長期記憶に強固に定着するための習得法ということなのです。

実際、「なるほど～」と言っても最後は古来の勉強法に戻ってしまう人が殆どですし、このレポートを読んだあなたがどう思われるか、私には分かりません。それは個人の自由なのであなたに合うメソッドを選択すれば良いと思いますが、もしあなたが語学の勉強を長い間続けているのに、全然進歩しない、話せるようにならない、聞き取れるようにならない...ということで悩まれているのであれば、このタイミングで「**新しい様式のスペイン語習得法**」に切り替えても良いのかも知れません。

## 「Nuevo Estilo ～ 新しい様式のスペイン語習得法」

冒頭でもお話ししましたが、この新しい様式のスペイン語習得法の基本コンセプトはまさに「**急がば回れ**」ということです。多少時間は掛かっても、長期記憶に強固に定着するスペイン語力、錆び付かないスペイン語力を身に付けたいという方は、是非参考にして頂ければ幸いです(^^)

それでは、最後まで読んで頂きまして誠にありがとうございました。末筆ながらあなたのスペイン語習得、その他言語の習得の成功を心よりお祈り申し上げます。

世界を繋ぐスペイン語通訳・翻訳者